(仮称) 国立市困難な問題を抱える女性への支援にかかる基本計画(素案)パブリックコメント結果

期間：2025(令和7)年2月10日(月)～3月3日(月)

意見数：61件(12人)

番号	素案項目		意見概要	回答	計画の修正
1	全体		細部にわたりきめ細かい検討がされていてすばらしい。このハイレベルな取組が全国に拡散していけば良い。	計画に基づき、困難な問題を抱える女性の支援について各種の取組を進めていきます。	
2	全体		市民が読みやすく、受け取りやすい計画であると感じた。女性がなぜ困難を抱えさせられているのか、困難を抱えさせられている女性と伴走していく必要があるのか、といった点が分かりやすい。一つの基礎自治体が、真摯に計画を作成したことは、これからの女性支援において重要。他の基礎自治体も後に続いてほしい。	計画に基づき、困難な問題を抱える女性の支援について各種の取組を進めていきます。	
3	全体		本基本計画が、独立した計画として作られていること、一人ひとりの女性の意思が尊重されることを目指されていること、女性の人権を尊重しジェンダー平等の地域づくりを目指されていることに賛同する。このような計画を作る国立市を誇りに思う。	計画に基づき、困難な問題を抱える女性の支援について各種の取組を進めていきます。	
4	全体		本計画に至る歴史的な経緯や用語の定義、問題意識や姿勢が明確で、計画の読みやすさと実効性の両面からとても良い。	計画に基づき、困難な問題を抱える女性の支援について各種の取組を進めていきます。	
5	全体		様々な大事な観点が盛り込まれていて、市でこのような取組が行われているのはすばらしい。	計画に基づき、困難な問題を抱える女性の支援について各種の取組を進めていきます。	
6	全体		見えにくい、分かりにくい、捉えにくい「困難」がケアされ、脆弱性を抱える誰もが生き延びられる支援を実施してほしい。支援者のケアも含めて、持続可能なシステムになることを期待する。	計画に基づき、困難な問題を抱える女性の支援について各種の取組を進めていきます。	
7	副題		サブタイトルが、当事者中心をさらに掘り下げていることがわかってとても良い。	本計画の基本理念を踏まえた副題としています。	
8	第1章1	計画策定の経緯	「売春を行う恐れのある女性」という表現が差別的であるため、売春防止法上の表現だと明確にするため括弧付けにすべき。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
9	第1章2	女性支援の経緯と国立市の女性支援の変遷	「未婚」の表現は婚姻すべきという価値の押し付けが感じられるため、「非婚」や「婚外」等の表現に修正すべき。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
10	第1章3	困難な問題を抱える女性とは	トランスジェンダーについて、「女性としての背景事情に起因する様々な困難性を抱える人」を「困難な問題を抱える女性」と捉えて支援が行われることに賛同する。	困難な問題を抱える女性について、本計画ではこのような定義として捉えています。	
11	第1章3	困難な問題を抱える女性とは	「困難な問題を抱える女性」の定義が画期的。	困難な問題を抱える女性について、本計画ではこのような定義として捉えています。	
12	第1章3	困難な問題を抱える女性とは	「困難な問題を抱える女性」を、身体状況や性自認にとどまらず「女性性に起因する困難を抱えているすべての人」としたことを評価する。	困難な問題を抱える女性について、本計画ではこのような定義として捉えています。	
13	第1章3	困難な問題を抱える女性とは	「トランスジェンダー女性については、シスジェンダー女性と同様に」とあるが、この計画の対象が「女性」であり、妊娠/出産する可能性のある性としての「女性の性」が困難性を生み出す要因の一つに当たるため、「シスジェンダー」という用語をあえて用いる必要はない。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
14	第1章3	困難な問題を抱える女性とは	「女性としての背景事情」とあるが、女性問題だと矮小化される可能性があり、修正すべき。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
15	第1章3	困難な問題を抱える女性とは	「問題を抱えた方」という表現は、女性が抱えさせられる困難が個人の問題に矮小化される危険性があるため、「問題を抱えさせられた方」等に修正すべき。	「困難な問題を抱える」という表現については、法律上の文言と同様の表現を採用していますが、問題は社会構造上の問題が大きく影響しているという趣旨を追記しました。。	有
16	第1章3	困難な問題を抱える女性とは	「家族や親族という関係の中で、～女性が背負わされているものではないでしょうか」の文章が読みづらい。また、女性のそうした苦しさは「家族や親族という関係」ととどまらない。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有

17	第1章4	基本理念	人権の擁護・男女平等実現	女性の困難さを「社会構造上の問題と捉えなければなりません」と明示されているのがうれしい。意思形成の支援が必要とも明示されていて安心できる。取り組む側への意識の働きかけは具体的にたくさん進めてほしい。	基本理念として掲げた項目を踏まえて、多くの方への意識啓発に取り組んでいきます。	
18	第1章4	基本理念	官民協働の支援	本人の意思の引き出しはすぐにできるものでなく、自立には中長期の支援が必要だが、そのための資源は不足していると思われる。その面での民間事業者との連携等について具体的に検討すると良い。	民間団体との協働については、引き続き効果的な連携のあり方について検討していきます。	
19	第1章4	基本理念	官民協働の支援	特定の事業者名が記載されているのは不適切。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
20	第1章4	基本理念	官民協働の支援	行政の計画に民間団体の名称やロゴが入るのは違和感がある。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
21	第1章4	基本理念	官民協働の支援	特定事業者のロゴが記載されているが、特定団体が明示されることで、新たな団体の活動の可能性を妨げたり、由々しき事態が発生したときに身動きが取れなくなったりする可能性もある。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
22	第1章4	基本理念	官民協働の支援	特定団体の名称が含まれていることに違和感がある。特定の民間団体ありきの計画は、公共性・公平性・持続可能性について疑義が生じる。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
23	第1章4	基本理念	官民協働の支援	民間との協働が特定の団体ありきなのは、事業の持続可能性や代表の交代等での団体の力の変化など、不安要素が強い。	現在協働している民間団体以外についても、今後連携を広げていくよう取り組んでいきます。	
24	第1章5	4本の柱		女性相談支援センターや女性自立支援施設に関する説明で実態と離れている部分がある。例えば、女性自立支援施設の「職員」は「支援員」とすべき。また、「自立支援施設」や「女性福祉施設」という表現は国の基本方針には見られない。「自立支援施設」という表記は、「経済的自立が難しい人を自立させる施設」と捉えられてしまう可能性がある。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
25	第1章5	4本の柱	民間団体	「制度の狭間に陥る女性のエンパワメントを図る事業」とあるが、制度の狭間の問題と女性のエンパワーは違う次元の問題だ。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
26	第3章1	関係者等へのヒアリング		関係者、特に当事者へのヒアリングを実施したことは、貴重で先進的。	当事者等へのヒアリング結果を今後の取組にかかしていきます。	
27	第3章1	関係者等へのヒアリング		ヒアリングを行った民間団体は、社会福祉系なのか男女共同参画系なのか、どのような団体かを示してほしい。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
28	第3章1	関係者等へのヒアリング		ヒアリング結果の自由記述と課題は、分類のうえ観点毎にまとめて記載するほうが良い。	ヒアリング内容は多岐にわたり分類が難しいため、現状のまとめ方となっています。	
29	第3章2	データの把握	夜間・休日女性相談	「暴力に関する相談のように緊急を要する相談は比較的少ない」とあるが、拾えていない案件があるかもしれないという前提で、緊急相談をキャッチしやすい入口や体制、警察や病院側からのリーチを検討してほしい。	相談者が相談しやすいよう、相談窓口の効果的な運用等について、引き続き検討していきます。	
30	第3章3	困難な問題を抱える女性の現状と課題		中高年を真っ先に書いていることが現実的。精神疾患については、カウンセリングは「予約して」「実際行く」ができないことも多い。すべてのケアにおいて、「当たり前」として見落としてしまっていたことが見つければ、まず「できない」ではなく「伴走」ができるよう支援してほしい。たくさん見落としがちな事柄が具体的に書かれていてよい。	一人一人の女性の意思を尊重し、寄り添った支援が可能となるよう、計画に基づき取り組んでいきます。	
31	第3章3	困難な問題を抱える女性の現状と課題	中高年	「中高年女性」を筆頭に挙げてくれたことに感謝する。ロスジェネ・就職氷河期・シングルの中高年女性の問題に光を当てる必要がある。	従来なかなか着目されなかった「中高年女性」についても、本計画で課題等を捉えて支援にあたっていきます。	
32	第3章3	困難な問題を抱える女性の現状と課題	若年	女性自立支援施設の入所を断るのは措置機関であり、施策の周知がなされていない段階で、ネガティブキャンペーンのような表現は適切でない。「今は精神疾患・障害の方の入所は難しい場合もあるが、今後どのように対策を講じていくのかを関係機関で考えていきたい」といったポジティブな表現が良い。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
33	第3章3	困難な問題を抱える女性の現状と課題	若年	「依存を強めることもあり、～」の一文は、前後で分けると読みやすい。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有

34	第3章3	困難な問題を抱える女性の現状と課題	若年	学校教育での女性福祉に関する啓発が被害の予防にもつながる。教育機関との協働について記載しないのか。	若年に対する学校教育等については、ジェンダー平等推進計画とも連動して取り組んでいきます。	
35	第3章3	困難な問題を抱える女性の現状と課題	しょうがい	国立市は障害施策が進んでいる印象だが、有機的な連携はないのか。	しょうがいのある女性の支援については、本人の意思を尊重した支援となるよう、しょうがいしゃ支援課や女性相談支援員等が連携して対応しています。	
36	第3章3	困難な問題を抱える女性の現状と課題	精神疾患	精神疾患についてはアルコール依存など男性への支援が主流だが、女性の精神疾患への支援に注力してほしい。	精神疾患を抱えた女性からの相談も多い状況であり、引き続き適切な支援に取り組んでいきます。	
37	第3章3	困難な問題を抱える女性の現状と課題	外国にルーツのある人	「外国にルーツのある人」ではなく「外国にルーツのある女性」が良い。	ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
38	第3章3	困難な問題を抱える女性の現状と課題	トランスジェンダー	トランスジェンダー男性が女性自立支援施設へ入所可能であることの根拠はあるのか。実際には難しい可能性が考えられるのではないのか。	トランスジェンダー男性の女性自立支援施設への入所については個々の事情によるところです。ご意見を踏まえて記載内容を修正しました。	有
39	第3章4	施策	様々な女性が相談しやすい環境の整備	なぜ困難さを抱えさせられる女性が存在するのかを社会の問題として捉えられるように、当事者や女性や関係者だけでなく一般の人や男性の意識も向上させるため、庁内や市民への取り組みが必要。	困難な問題を抱える女性の支援について、多くの方に知っていただけるよう啓発を進めていきます。	
40	第3章4	施策	様々な女性が相談しやすい環境の整備	小さい頃から人権教育や包括的性教育の実施を進めてほしい。学校教育だけでなく大人が学ぶ機会も作ってほしい。	困難な問題を抱える女性の支援について、多くの方に知っていただけるよう啓発を進めていきます。	
41	第3章4	施策	様々な女性が相談しやすい環境の整備	オンライン相談の導入、夜間・休日対応の拡充、多言語対応の強化を検討すべき。	様々な女性が相談しやすい環境の整備については、計画に基づき今後具体的な取組を検討していきます。	
42	第3章4	施策	様々な女性が相談しやすい環境の整備	男女平等参画ステーションのスタッフ増員、業務環境の改善が必要。執務スペースの拡張、個室相談ブースの増設、相談履歴を適切に管理できるシステムの導入を進めるべき。特に、プライバシーをさらに確保した新たな相談スペースの確保と、防音対策の強化が求められる。加えてスタッフがリフレッシュできる休憩スペースの確保も検討すべき。	男女平等参画ステーションについては、引き続き業務環境改善に向けて取り組んでいきます。	
43	第3章4	施策	一人ひとりの女性を中心にといった支援の充実	予期せぬ妊娠をした女性に対する支援を検討課題に挙げてほしい。	主な取組10「健康及び心理的支援の実施」において、望まない妊娠等により支援を要する女性への支援を記載しており、計画に基づき取り組んでいきます。	
44	第3章4	施策	一人ひとりの女性を中心にといった支援の充実	医療機関との連携について、子どもの性の悩み、性自認や性同一性障害の相談、思いがけない妊娠、包括的性教育など、困難さを未然に防ぐためにも必要。	医療機関とは現状も必要に応じて連携しているところですが、さらなる連携についても検討していきます。	
45	第3章4	施策	一人ひとりの女性を中心にといった支援の充実	具体的に市内の医療機関との連携を検討できると良い。	医療機関とは現状も必要に応じて連携しているところですが、さらなる連携についても検討していきます。	
46	第3章4	施策	庁内外で連携した推進体制の整備	女性への支援のすべてに「女性支援」と冠しなくても良い。すべての支援が、女性である（とされる）ことの困難というジェンダーを踏まえた視点であってほしいと思うので、施策3に書かれていることがうれしい。	女性相談支援員だけでなく、困難な問題を抱える女性の支援に関わるすべての職員が適切な対応を取ることができるよう、研修等に取り組んでいきます。	
47	第3章4	施策	庁内外で連携した推進体制の整備	具体的な担当部署がそれぞれの取組に明記されていて素晴らしい。具体的な役割分担、マニュアル、申し送りのスキームなどにつながることを期待する。	支援調整会議の設置等により、関係部署間での連携強化に取り組んでいきます。	
48	第3章4	施策	庁内外で連携した推進体制の整備	市外や東京都、他道府県とも連携する必要がある。様々な連携先を作ることが支援の幅を広げる。	ご意見を踏まえて、主な取組に「国や東京都との協議及び近隣市等との連携」を加えました。	有
49	第3章4	施策	庁内外で連携した推進体制の整備	国立市や委託先の民間団体が苦慮しているのは広域連携だと思うが、その点が明示されていない。近隣自治体や東京都、他県と、確実に連携していきたいということを明記するとよい。	ご意見を踏まえて、主な取組に「国や東京都との協議及び近隣市等との連携」を加えました。	有
50	第3章4	施策	庁内外で連携した推進体制の整備	相談者に合わせた支援を行うために、人員の確保、相談員のスキルアップ、環境整備（特に相談スペースや執務室の環境改善）が必要。利用者が安心して相談できる環境の整備と、支援する側のサポートを望む。	相談員側の環境整備やスキルアップを行うため、計画に基づき具体的な取組を検討していきます。	

51	第3章4	施策	庁内外で連携した推進体制の整備	相談員の専門性向上のために定期的な研修や医療・法律・福祉分野との連携強化が必要。	相談員のスキルアップを図るため、各種研修への参加や専門機関との連携を積極的に進めていきます。
52	第4章2	相談者からの意見を踏まえた支援体制の構築		唐突感や違和感があるので、計画の中身と接続し、その一部であると明記すると良い。国立市や委託先の民間団体に対する苦情を申し立てにくい状況があると感じる。当事者の声を拾うことができるよう、複数の回路を作り、風通しの良い支援体制を作っていくことが重要。	相談者の苦情や意見に適切に対応するための体制や効果的な周知方法等については、計画を進める中で検討していくこととしています。
53	第4章2	相談者からの意見を踏まえた支援体制の構築		利用者が事業者に不満があった場合の相談・救済制度として、男女平等推進市民委員会での苦情受付ではなく、事業者の顔色を伺わずにより身近に訴えられる窓口が必要。	相談者の苦情や意見に適切に対応するための体制や効果的な周知方法等については、計画を進める中で検討していくこととしています。
54	第4章2	相談者からの意見を踏まえた支援体制の構築		安全な通報制度や、安全性を確保したうえで他の支援につないだり施設にフィードバックしたりするような第三者機関の設置が必要。	相談者の苦情や意見に適切に対応するための体制や効果的な周知方法等については、計画を進める中で検討していくこととしています。
55	第4章2	相談者からの意見を踏まえた支援体制の構築		福祉施設での虐待やボランティア団体内での性暴力、支援者による二次的な加害が頻発している。オンブズマン制度や苦情対応の仕組みがあっても、その「入口」がどこにあるかわかりにくい。直接的かつ簡便に第三者への訴えができる体制の構築と、周知するためのツールが必要。そのオープンな姿勢をとることが、不当なクレームやSNSでの炎上を予防し、相談者だけでなく支援者や市職員を守ることになるため、計画に反映してほしい。	相談者の苦情や意見に適切に対応するための体制や効果的な周知方法等については、計画を進める中で検討していくこととしています。
56	第4章3	評価と指標		評価は庁内の男女平等推進本部による評価ではなく、第三者による客観的な評価が必要。	計画の推進状況の評価については、国立市第6次ジェンダー平等推進計画と同様に、男女平等推進本部及び男女平等推進市民委員会で行うこととしており、評価が客観的かつ効果的に行われるよう留意して、男女平等推進市民委員会の委員選任を行います。
57	第4章3	評価と指標		身内の男女平等推進本部の評価や、同業者を含む機関である男女平等推進市民委員会による評価だけでなく、第三者による評価・検証も行うべき。	計画の推進状況の評価については、国立市第6次ジェンダー平等推進計画と同様に、男女平等推進本部及び男女平等推進市民委員会で行うこととしており、評価が客観的かつ効果的に行われるよう留意して、男女平等推進市民委員会の委員選任を行います。
58	第4章3	評価と指標		定量的な数値評価と、聞き取り調査などにより定性的な成果や課題発見、改善プロセスにつなげることは、両面から意義深い。一方で「誰が評価するのか」の視点が不足しており、特に委託事業者の評価においては、女性支援の同業者や地域内につながりのある委員を避け、利害関係のない第三者による評価や業務監査、会計監査などの仕組みが必須。	計画の推進状況の評価については、国立市第6次ジェンダー平等推進計画と同様に、男女平等推進本部及び男女平等推進市民委員会で行うこととしており、評価が客観的かつ効果的に行われるよう留意して、男女平等推進市民委員会の委員選任を行います。
59	第4章3	評価と指標		数値化が難しいことだが目標の数値には違和感がある。だが、実践することの回数というのも大切かもしれない。加えて、庁内研修の未受講者を減らすという数値目標も良いと思う。	指標については、進捗の把握や集計のしやすさ等を鑑みて設定しました。
60	その他			相談から自立までの具体的な例などが書かれているとわかりやすい。	特定の事例をもって全体的な傾向との誤解が生じるおそれもあることから、個々の支援事例については掲載していません。
61	その他			日本は国連女性差別撤廃条約選択議定書を批准していない。選択議定書には、国内で訴えを認められなかった個人が人権救済を申し立てできる個人通報制度が盛り込まれている。全国約300の地方議会が国に批准を求める意見書を採択しているが、国立市議会は採択していない。国立市には、国に批准を求めるリーダー的存在になってほしい。	ご意見については議会事務局に送付させていただきます。